

コンパス調剤薬局瀬谷 スキルアップ勉強会

2019.4.26 鈴木

第93回『エイベリス点眼液 0.002%』

参天製薬株式会社 新留様

出席者：小西、松本、天野、斎藤、佐藤(綾)、木元、伊藤、谷藤、吉川、鈴木

緑内障は、視神経の障害により視野の欠損が起こる疾患で、日本における眼疾患による視覚障害（視力低下、失明）の主な原因となっている。緑内障の視神経障害および視野障害は基本的に進行性で非可逆的であるため、早期発見・早期治療による障害の進行抑制が治療上の重要な課題である。眼圧を下降させることは、現在緑内障の障害に対する最も確実な治療法である。

本剤の有効成分であるオミデネパグイソプロピルは、世界初の選択的 EP2 受容体作用薬で、眼圧下降作用を示す新規作用機序の化合物であり、この治療法に貢献する薬剤である。

【効能・効果】

緑内障、高眼圧症

【用法・用量】

1回1滴、1日1回点眼する。

【禁忌】

1. 無水晶体眼又は眼内レンズ挿入眼の患者 [嚢胞様黄斑浮腫を含む黄斑浮腫、及びそれに伴う視力低下及び視力障害を起こすおそれがある。]
2. タフルプロストを投与中の患者
3. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【慎重投与】

虹彩炎、ぶどう膜炎等の眼炎症性疾患のある患者 [本剤の投与により眼炎症が悪化するおそれがある。]

【副作用】

結膜充血、角膜肥厚、虹彩炎、眼痛、羞明、眼不快症状、眼刺激感、角膜上皮障害等。重大な副作用として嚢胞様黄斑浮腫、黄斑浮腫、視力低下、視力障害。

【作用機序】

既存の FP 受容体作動薬が主にぶどう膜強膜流出経路からの房水流出を促進するのに対し、本剤は選択的に EP2 受容体に作用し、ぶどう膜強膜流出経路および線維柱帯流出経路の両方からの房水流出を促進することで、強力かつ安定した眼圧下降作用を示す。

【特徴】

- ・EP2 受容体に選択的に作用して眼圧下降作用を示す、緑内障・高眼圧症治療剤。
- ・長期投与試験において有効性と安全性が確認。
- ・本剤のラタノプロスト点眼液 0.005% に対する眼圧下降効果の非劣性が検証された。
- ・他剤無効例の開放隅角緑内障および高眼圧症を対象とした臨床試験において、エイベリス点眼液の投与により有意な眼圧下降が認められた。

【考察】

緑内障・高眼圧症の薬物治療においてプロスタグランジン製剤（PG 製剤）は優れた眼圧降下作用と点眼回数、副作用の面で良好な忍容性があるため、第一選択薬として使用されている。しかし、PG 製剤は非反応性や低反応性の患者が存在すること、色素沈着や睫毛異常伸長など眼局所の副作用が発現することが報告されている。

エイベリス点眼液は既存の薬剤と異なり、選択的に EP2 受容体を刺激し、線維柱帯流出路およびぶどう膜強膜流出路からの房水流出を促進することでラタノプロスト製剤と同様の眼圧降下作用を示し、かつ眼瞼色素沈着や睫毛異常等の副作用が起こらず患者の QOL 向上に期待ができる。

しかし、黄斑浮腫が出やすくなるため白内障術後患者に禁忌、虹彩炎が起こりやすくなるためタプロス使用中の患者には禁忌、またタプロス以外の PG 製剤とも併用注意等注意が必要である。

また 2～8℃の冷所保管、開封後は 1 カ月以内であれば室温保存可能であり、説明が必要。

【質問事項】

Q：初回、切り替えについて

A：緑内障治療初回患者、単独使用で使用可能。また既存点眼薬で副作用症状が出ている患者への切り替え時には他に併用していても使用可能。

Q：眼瞼色素沈着はないのか

A：現時点で目の周りが黒くなる副作用報告はない。

以上